



東 光久先生

福島県立医科大学 白河総合診療アカデミー/白河厚生総合病院

1) こんなところで働いています (^^)

地域基幹病院で診療、教育（研修医、他職種）、チーム活動（がん、緩和、臨床倫理、COVID-19対策）、臨床研究を行っています。院外では地域におけるACP普及活動（ACPしらかわ）、関節リウマチを非専門医対象に行う勉強会（SHIRAKAWA塾）、福島県内のがん診療に携わる多職種での勉強会（MIRAIカンファレンス・FUKUSHIMA塾）、その他全国的な活動として、Patient Empowerment Program（オンコロジー教育推進プロジェクト）、全人的医療WG（日本内科学会）などに従事しています。

2) 私のサブスペはこれだ！

がん、血液、リウマチ・膠原病

3) 自分がGenespelistであると感じるときは？

軸足が総合診療医なので、むしろ自分の持つサブスペ領域の相談を受けた時にGenespelistを意識します。学会等で、総合診療医の中にいる時はサブスペを、サブスペの中にいる時はジェネラルを意識しています。

4) Genespelistを勧める理由は？

1つの専門領域に集中するのは素晴らしいことだと思いますし、大学院で一定期間基礎研究でさらに細分化された領域を知るのもよい経験になるでしょう。ただ、一意専心で一つの分野に邁進してきたとしても、多くの臨床医はそこからまた日々の臨床に戻ってくるようになります。ダイバーはいつまでも深海には入れられないのです。もう一度深海を探索してみたいという気持ちがあるのであれば、基礎研究に進むべきでしょうし、十分深海を見てきたというのであれば、陸地にもどるのがよいでしょう。そうすると陸地の素晴らしさを再認識することになります。ジェネラルとサブスペの関係も同様で、サブスペを持っているからこそ、ジェネラルで学ぶ他のサブスペ領域にリスペクトが出ますし、自分の不完全さを理解しさらなる努力を引き出すことが出来ます。サブスペをもちつつジェネラルをやることで、自分がその時々においてジェネラルをどこまで実践でき



るか（サブスペをどこまで学ぶか）の臨界点も設定しやすくなるかもしれません。ジェネラルをやっている、ある時必ず、診療の対象が臓器やシステムだけではなく、人という『個の存在』に向かうようになります。さまざまな健康問題に対応する中で、患者は医師に対して信頼を置き、さまざまな相談と共に心遣いを見せるようになります。それが本当の対話であり、コミュニケーションです。患者とのふれあいの中で、人を診るとは、臓器の異常だけではなく、その人の人生を診るということに気がきます。医師がそこまで診ようと思っても、患者が認めなければその存在にはなりません。Genespelistは患者からも信頼され認められる存在なのです。

るか（サブスペをどこまで学ぶか）の臨界点も設定しやすくなるかもしれません。ジェネラルをやっている、ある時必ず、診療の対象が臓器やシステムだけではなく、人という『個の存在』に向かうようになります。さまざまな健康問題に対応する中で、患者は医師に対して信頼を置き、さまざまな相談と共に心遣いを見せるようになります。それが本当の対話であり、コミュニケーションです。患者とのふれあいの中で、人を診るとは、臓器の異常だけではなく、その人の人生を診るということに気がきます。医師がそこまで診ようと思っても、患者が認めなければその存在にはなりません。Genespelistは患者からも信頼され認められる存在なのです。

るか（サブスペをどこまで学ぶか）の臨界点も設定しやすくなるかもしれません。ジェネラルをやっている、ある時必ず、診療の対象が臓器やシステムだけではなく、人という『個の存在』に向かうようになります。さまざまな健康問題に対応する中で、患者は医師に対して信頼を置き、さまざまな相談と共に心遣いを見せるようになります。それが本当の対話であり、コミュニケーションです。患者とのふれあいの中で、人を診るとは、臓器の異常だけではなく、その人の人生を診るということに気がきます。医師がそこまで診ようと思っても、患者が認めなければその存在にはなりません。Genespelistは患者からも信頼され認められる存在なのです。

5) 日本の医療を支えるのにGenespelistは必要？

Genespelistを共通言語とし、広がることで、『患者を、人を、診る』という医療本来の原点回帰を実現します。Genespelistは社会が検査や機器ではなく、医師という人を信頼し尊敬する世の中に導きます。

6) あなたにとってGenespelistって？

日本における真の内科医であり、希望の星です。すべてのスペシャリストにそれぞれの目指すGenespelistとしての絵を描き、新たな生き方を見つけてほしいのです。

7) 最後にGenespelist推進メンバーとして一言

これからは医療の世界にもAIがますます広がり、診断や一律の治療はAIが担うようになるでしょう。Genespelistは、AIでは賄いきれない、心を持つ人としての患者との関係に潤いをもたらす存在として光を放つことでしょう。またそんな患者との関係性を通じて、医師として人としてより確かな成長を人生を通じて実感し続けることになるでしょう。



ACPN日本支部年次集会2019にて